

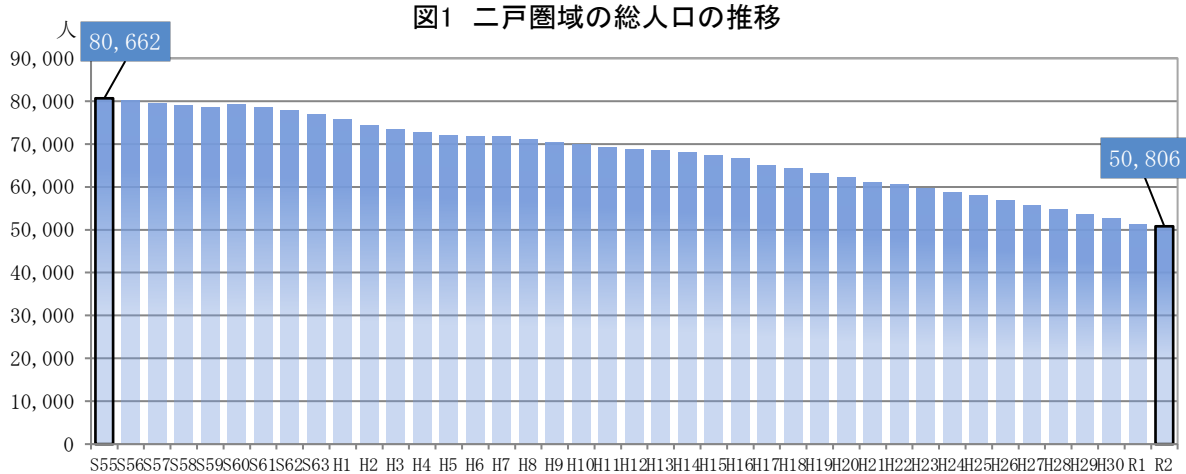
# 人口動態統計等から見る二戸圏域の状況

※このホームページで用いているデータは、人口動態統計等から得られた数値及びその数値を基に必要な計算を行い算出しています。従って、計算を行うための基となるデータが得られない等の理由で提供データの開始年次に差が生じています。

## I 人口の推移

### 1 総人口の推移

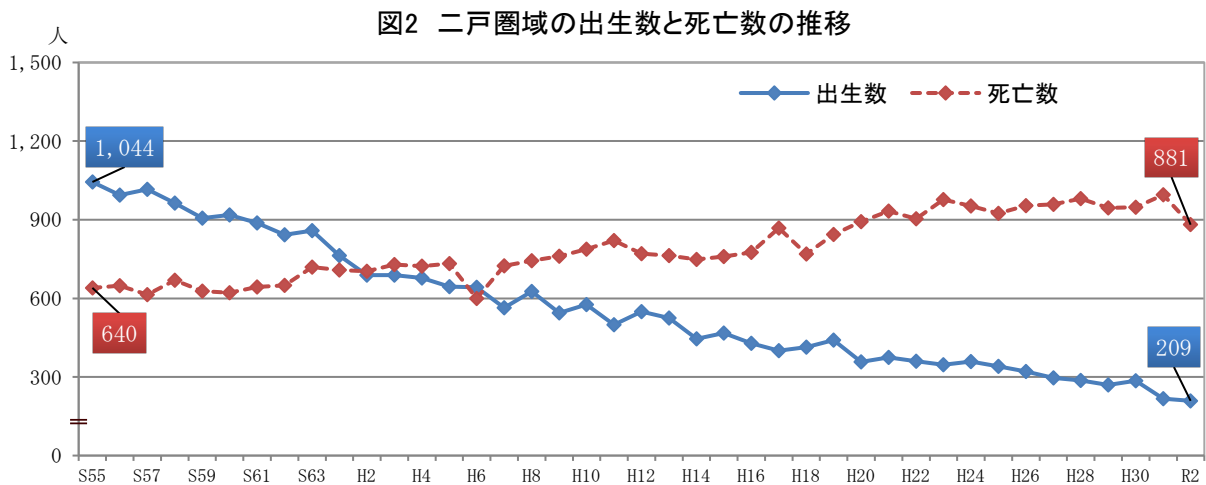
二戸圏域の人口は、昭和55年の80,662人から 令和2年は50,806人と約40年で29,856人減少しています(図1)。



### 2 人口構成の推移

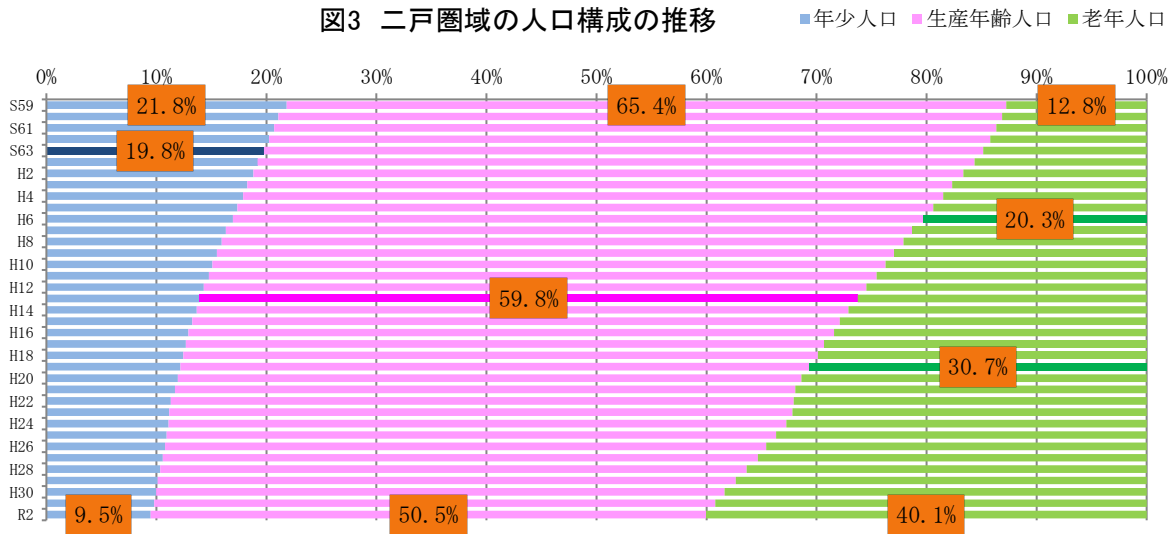
二戸圏域の1年当たりの出生数は、昭和55年には1,044人でしたが令和2年は209人と835人減少しました。一方、死亡数は昭和55年の640人から年々増加し、令和2年は881人となっています(図2)。

出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、平成2年に初めてマイナスに転じ平成6年に再びプラスとなりましたが、平成7年以降はマイナスで推移しその差は年々開いています。令和2年の自然増加数は672人減でした。



二戸圏域の総人口に占める各区分の割合を昭和59年から経年的に見たものが「図3」です。年少人口は昭和63年に19.8%となり、令和2年は9.5%まで低下しています。老年人口は平成6年は20.3%、平成19年は30.7%となり、令和2年は40.1%と2.5人に1人以上が65歳以上という状況です。

図3 二戸圏域の人口構成の推移



### 3 世帯数及び世帯当たりの世帯員数の推移

二戸圏域の世帯数は、昭和55年の21,590世帯から増加傾向にあり令和2年には20,327世帯となっています(図4)。総人口を世帯数で割った世帯当たりの世帯員数は、昭和59年の3.53人から令和2年は2.50人と減少しています(図5)。なお、世帯数は、国勢調査年は国勢調査による数値、それ以外は住民基本台帳による数値となっています。

図4 二戸圏域の世帯数の推移

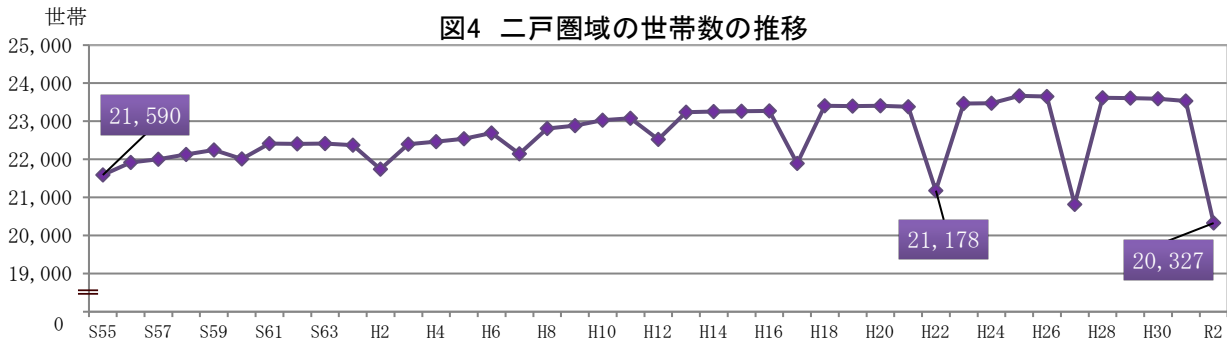
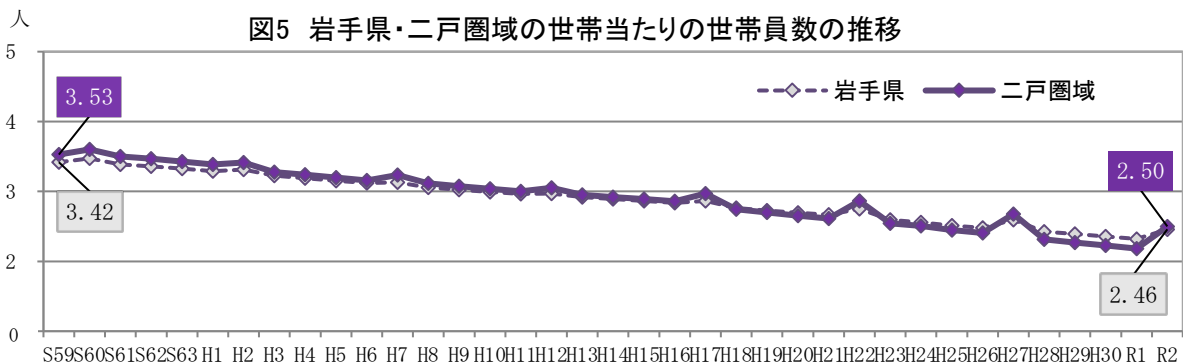


図5 岩手県・二戸圏域の世帯当たりの世帯員数の推移

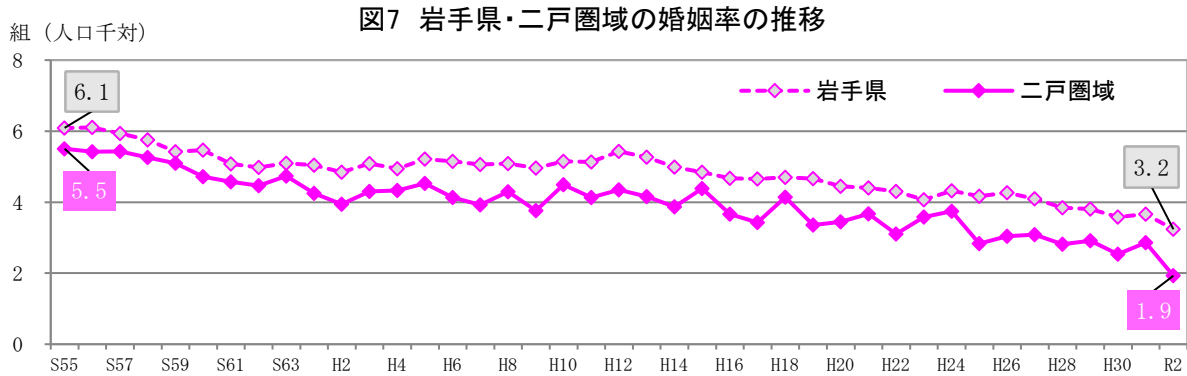
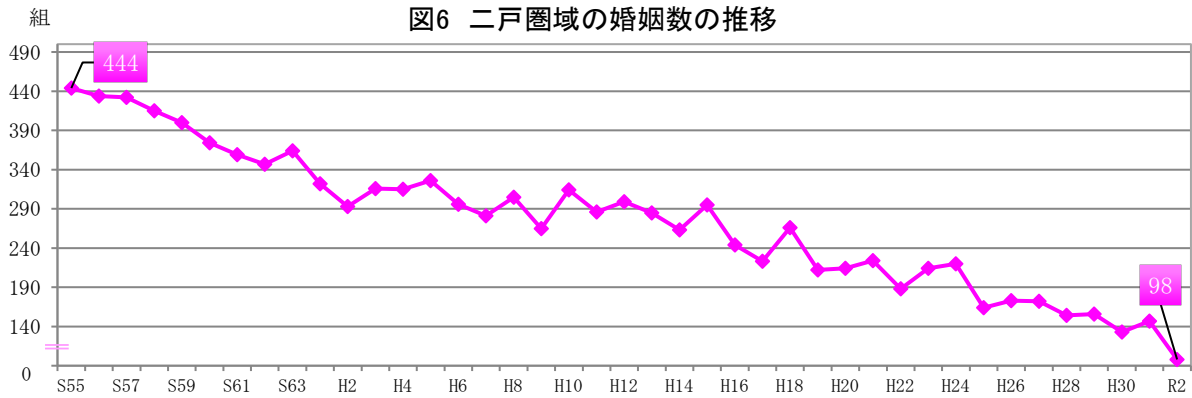


## II 婚姻及び離婚の推移

### 1 婚姻数及び婚姻率の推移

出生は婚姻等との関連が大きいところですが、二戸圏域の婚姻数は昭和55年の444組から減少傾向にあり、令和2年は98組と350組近く減少しています(図6)。

人口千人当たりの婚姻率は、いずれの年次も岩手県全体より低く推移しています(図7)。



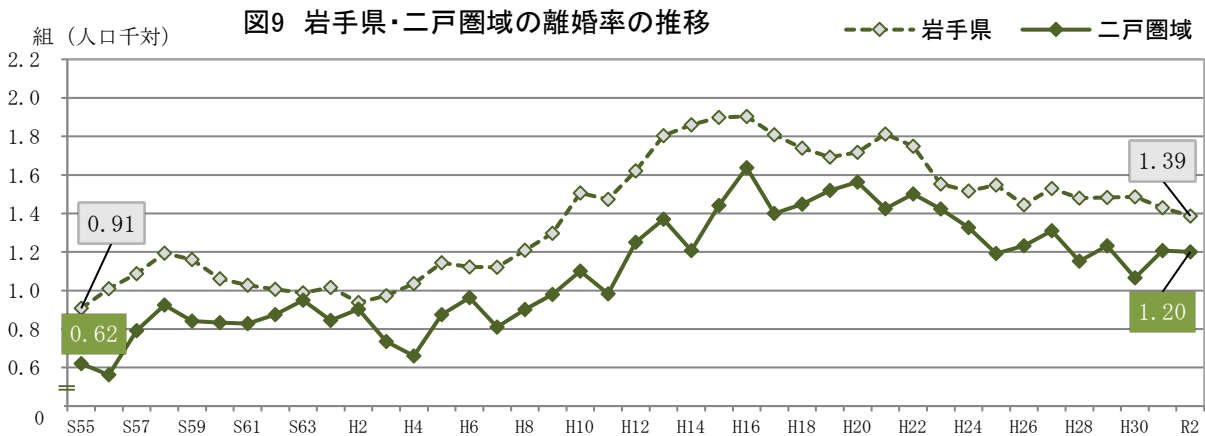
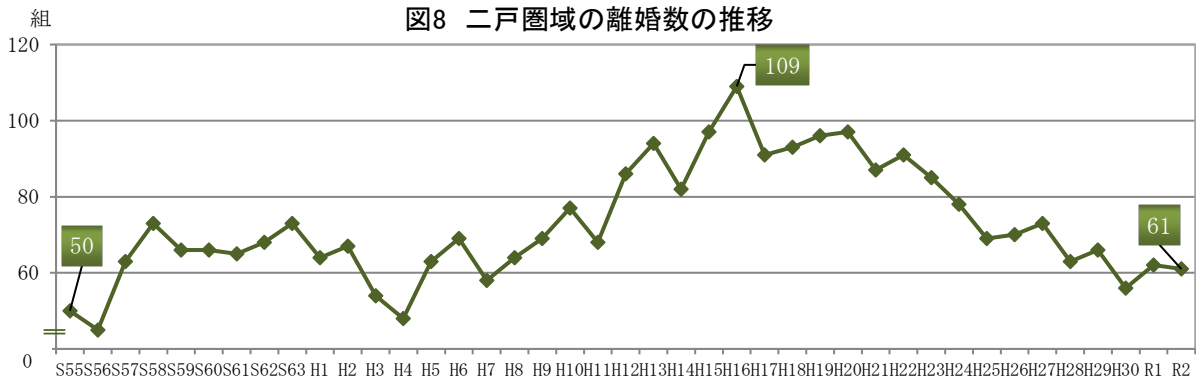
### 2 婚姻率の圏域別順位 (令和2年高率順)

	岩手県	1位	2位	3位		5位	6位		8位	9位
圏域名		盛岡	中部	胆江	釜石	宮古	両磐	気仙	久慈	二戸
婚姻率	3.2	3.7	3.4	3.1	3.1	2.9	2.8	2.8	2.3	1.9

### 3 離婚数及び離婚率の推移

二戸圏域の離婚数は、昭和55年の50組から増減を繰り返しながら増加していましたが、平成16年の109組をピークに翌年から減少傾向となり、令和2年は61組でした(図8)。

人口千人当たりの離婚率は、岩手県全体より低い状況で推移し平成16年をピークに低下傾向にあり、令和2年は1.20と岩手県全体を下回りました(図9)。



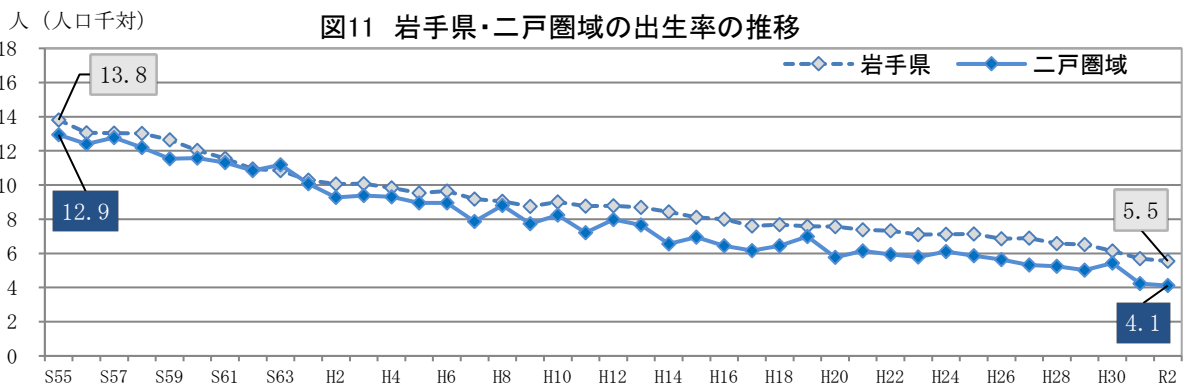
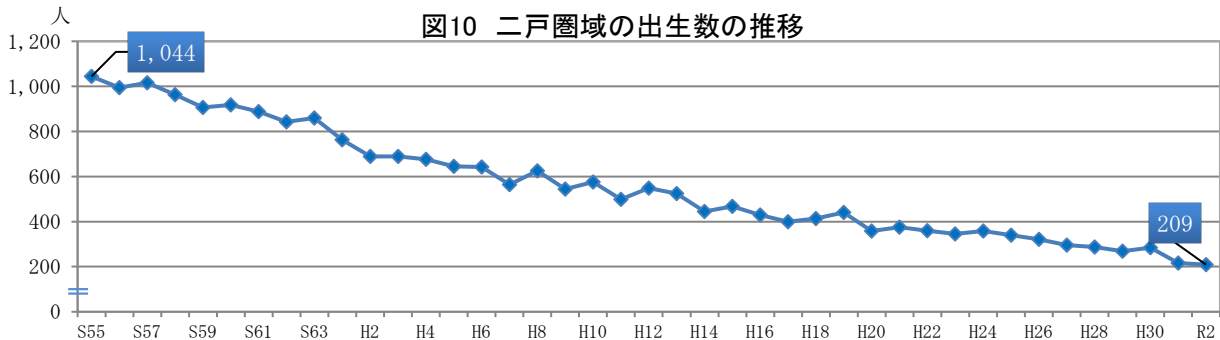
### 4 離婚率の圏域別順位 (令和2年低率順)

	岩手県	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
圏域名		釜石	久慈	二戸	気仙	両磐	盛岡	中部	宮古	胆江
離婚率	1.39	1.07	1.12	1.20	1.24	1.33	1.39	1.42	1.60	1.61

### Ⅲ 出生、周産期死亡、死産、乳児死亡等の推移

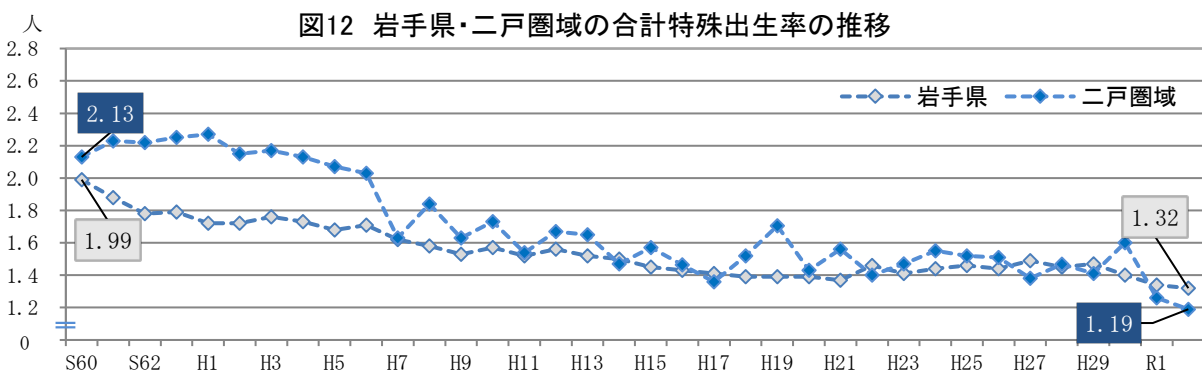
#### 1 出生数及び出生率の推移

二戸圏域の出生数は昭和55年に1,044人でしたが、令和2年は209人と835人減少しています(図10)。人口千人当たりの出生率は、昭和55年の12.9から低下傾向にあり令和2年は4.1となっております。また、昭和63年を除き岩手県全体より低く推移しています(図11)。



#### 2 合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生に産む子どもの数を表す指標の合計特殊出生率について、二戸圏域は昭和60年から平成6年まで2.0~2.30の間で推移し平成7年以降は1.1~1.8の間で推移しています。岩手県全体より高い年次が多いのですが、平成14年、17年、22年、27年、29年、令和元年、令和2年は岩手県全体を下回っています。令和2年は1.19でした(図12)。



#### 3 合計特殊出生率の圏域別順位(令和2年高率順)

	岩手県	1位	3位	4位	5位	6位	8位	9位		
圏域名		胆江	宮古	気仙	久慈	両磐	盛岡	中部	二戸	釜石
合計特殊出生率	1.32	1.44	1.44	1.36	1.35	1.34	1.30	1.30	1.19	1.17

#### 4 周産期死亡数・率の推移

妊娠満22週以降の死産（以下、「後期死産」と言います。）及び出生後満7日未満の死亡（以下、「早期新生児死亡」と言います。）を周産期死亡と言います。周産期死亡率は、出産（出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計）千対の率です。

二戸圏域の周産期死亡数は昭和57年から平成3年まで減少傾向にありましたが、平成7年は後期死産が10人と昭和57年以降最も多くなり、周産期死亡全体では11人でした。翌年からは6人以下で推移しています。内訳は後期死産が多くを占めています。令和2年の周産期死亡数は0人でした（図13）。

周産期死亡率は昭和57年の11.7から低下傾向にありましたが、平成7年に19.2と昭和57年以降最も高くなっています。平成8年からは12.0以下で上昇と低下を繰り返し、令和2年は0.0でした。昭和57年以降、年によりばらつきは大きいものの、岩手県全体より高い傾向にあります。（図14、図15）。

図13 二戸圏域の周産期死亡数の推移

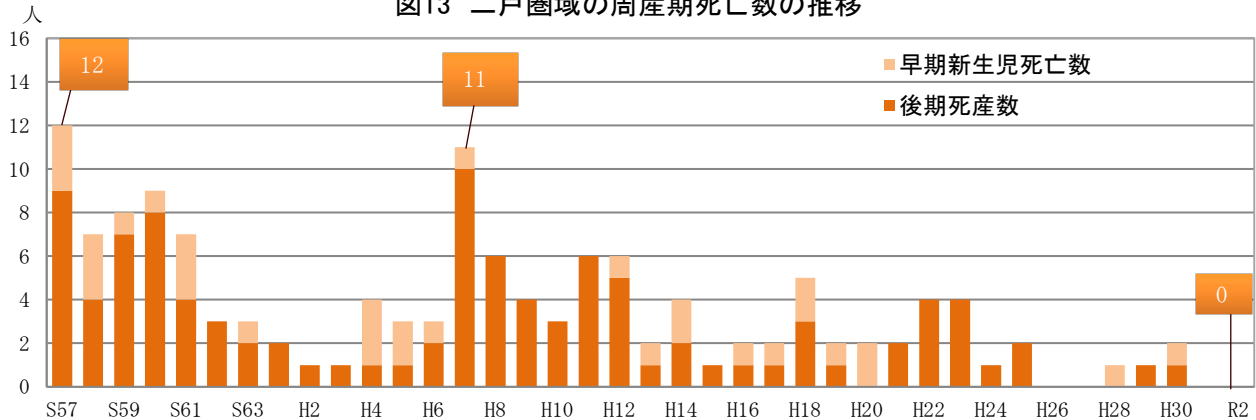


図14 二戸圏域の周産期死亡率の推移

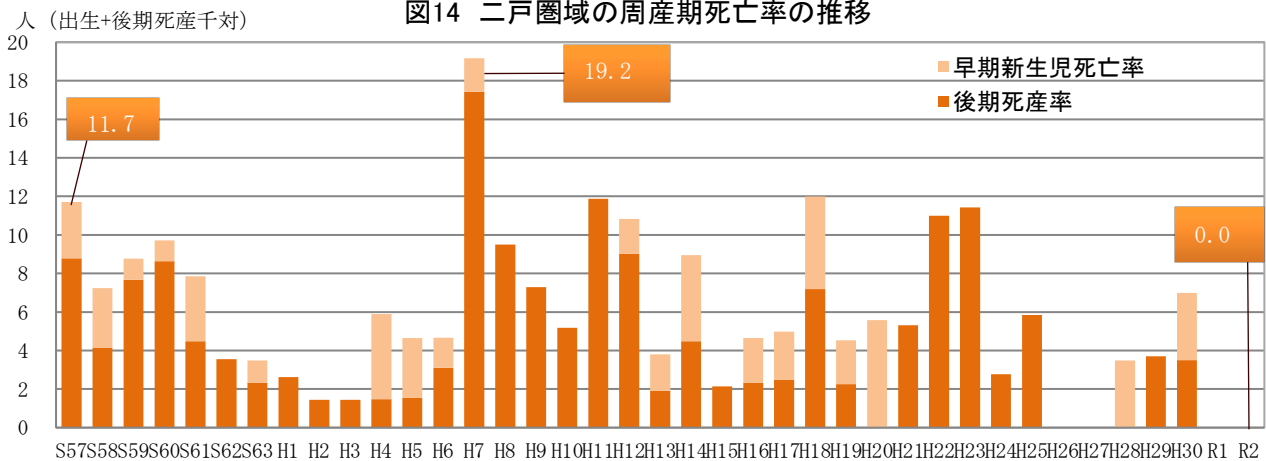
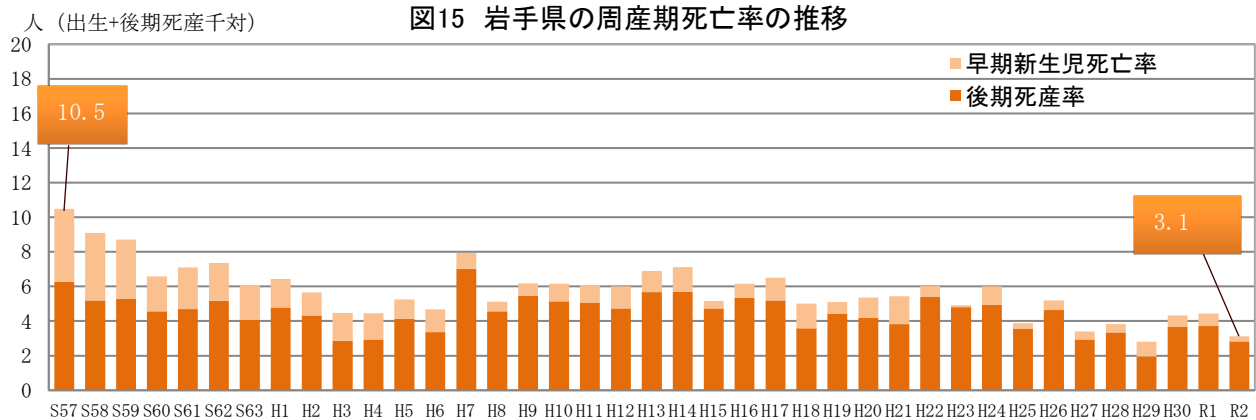


図15 岩手県の周産期死亡率の推移



## 5 死産数・率の推移

二戸圏域の死産数は、昭和55年の82人から昭和57年の86人をピークに減少傾向となり、令和2年は6人でした。内訳として、近年は自然死産と人工死産がほぼ同数程度となっている年次が多くなっています。(図16)。出生千人当たりの死産率は、昭和55年から60年までは70を超えている年次が多くありましたが、昭和61年からは50.0前後、平成11年以降は40.0以下で推移しています。平成14年は72.9と高かったのですが、平成15年以降40.0を大きく上回る年次は平成25年のみでした。岩手県全体と比較すると高い死産率で推移している年次が多く、令和2年は27.9と岩手県全体の21.8より高い状況でした(図17、図18)。

図16 二戸圏域の死産数の推移

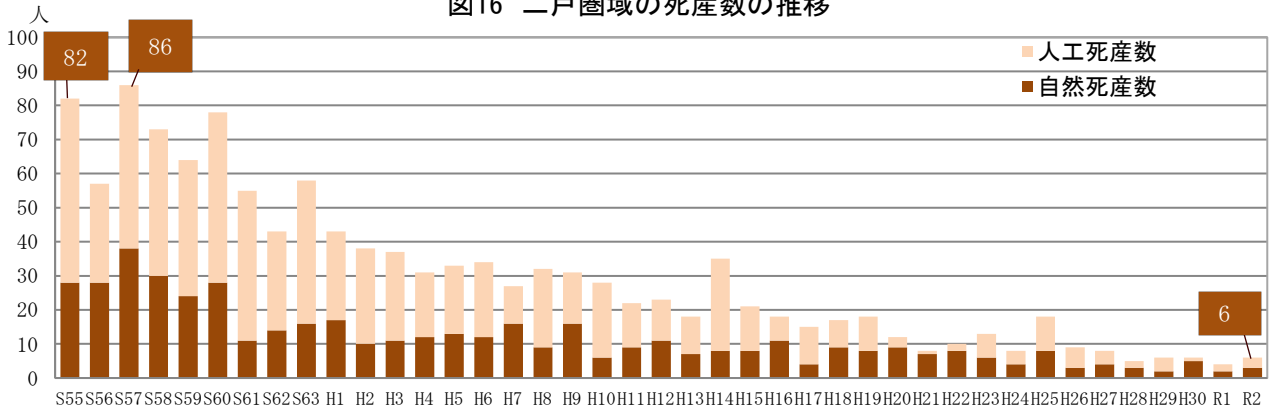


図17 二戸圏域の死産率の推移

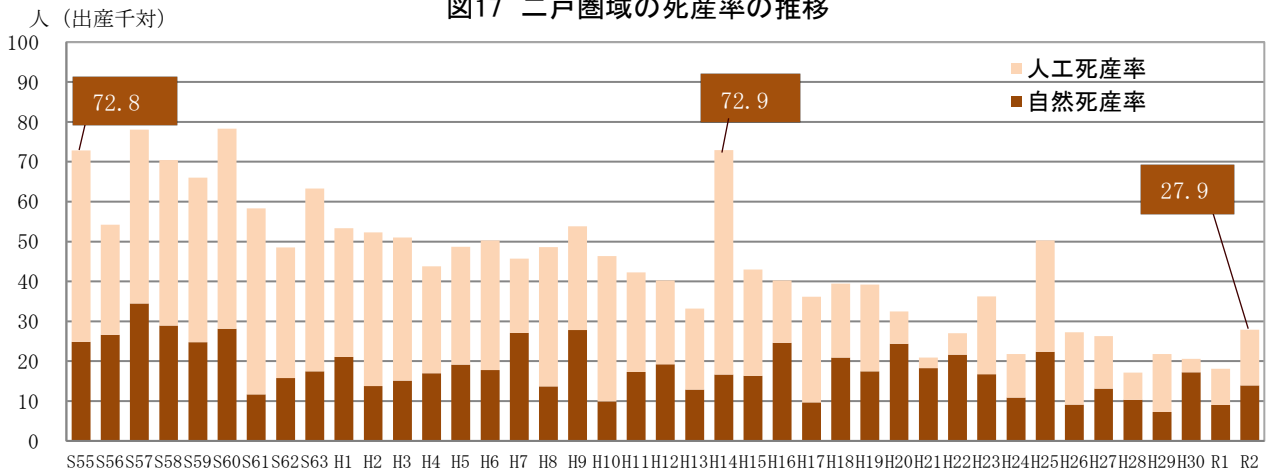
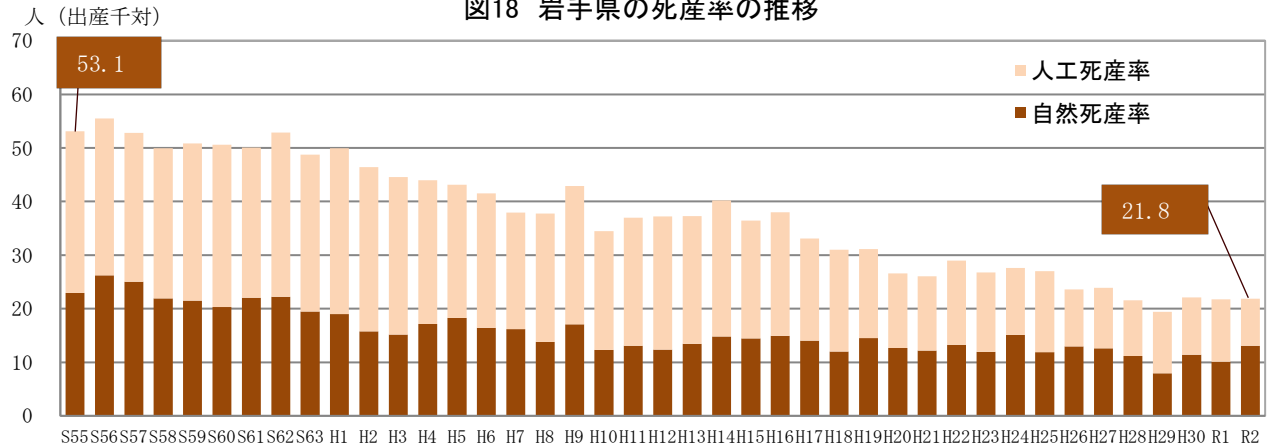


図18 岩手県の死産率の推移

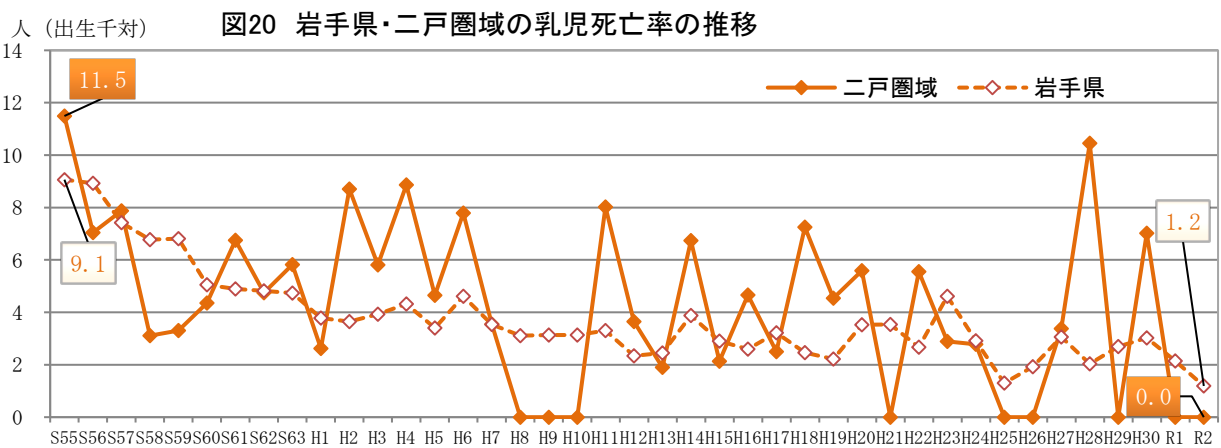
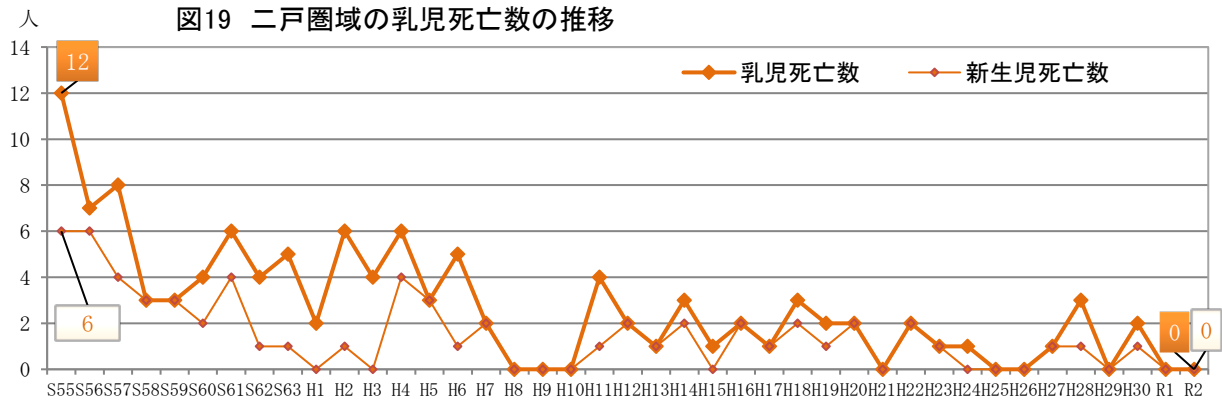


## 6 乳児死亡数・率の推移

二戸圏域の乳児死亡数は昭和55年の12人から減少し、平成12年以降は3人以下で推移しています。令和2年は0でした(図19)。

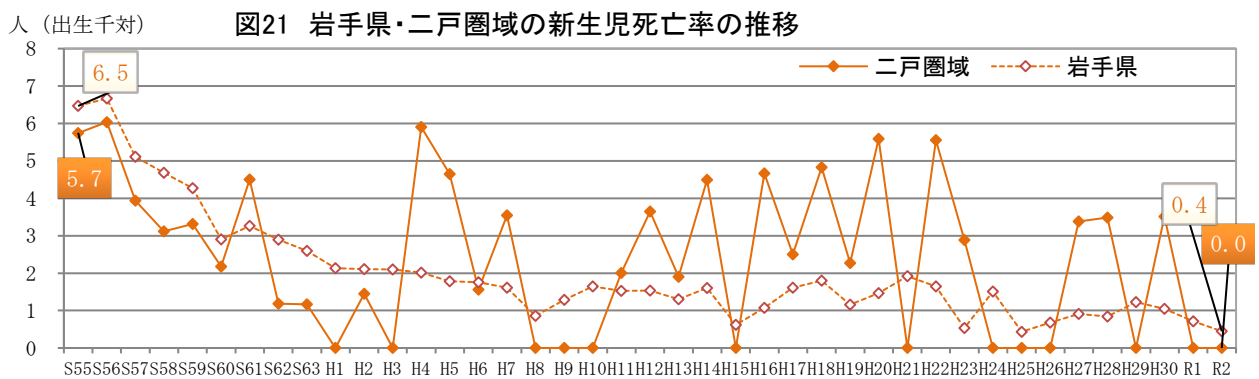
乳児死亡数のうち、生後4週間未満(新生児)の死亡は昭和55年の6人から平成6年以降は2人以下で推移していましたが、令和2年は0でした。

出生千人あたりの乳児死亡率は昭和55年の11.5から大きな幅で上昇と低下を繰り返し、概ね岩手県全体より高い状況で推移しています。令和2年は0.0でした(図20)。



## 7 新生児死亡率の推移

二戸圏域の出生千人当たりの新生児死亡率は昭和55年の5.7から大きく増減を繰り返し、近年では平成24年から26年は0.0となり、平成29年にふたたび0.0となりました。岩手県全体と比較すると、昭和55年から平成3年までは岩手県全体より低く推移していました。平成4年以降は0.0の年次もありますが、概ね岩手県全体より高く推移しています(図21)。

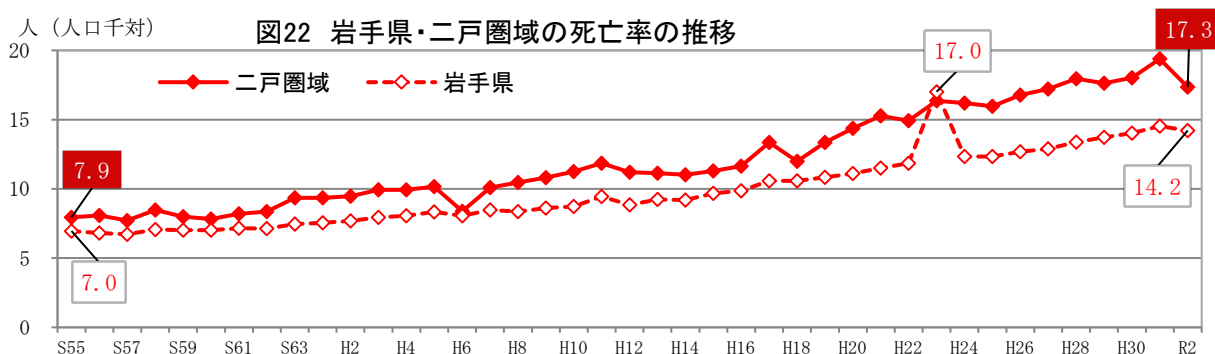




## IV 死亡の推移

### 1 死亡率の推移

二戸圏域の人口千人当たりの死亡率は昭和55年の7.9から令和2年は17.3と上昇しており、いずれの年次も岩手県全体より高く推移しています。なお平成23年は東日本大震災津波による影響により、岩手県全体は17.0と高くなっています(図22)。



### 2 年齢調整死亡率の推移

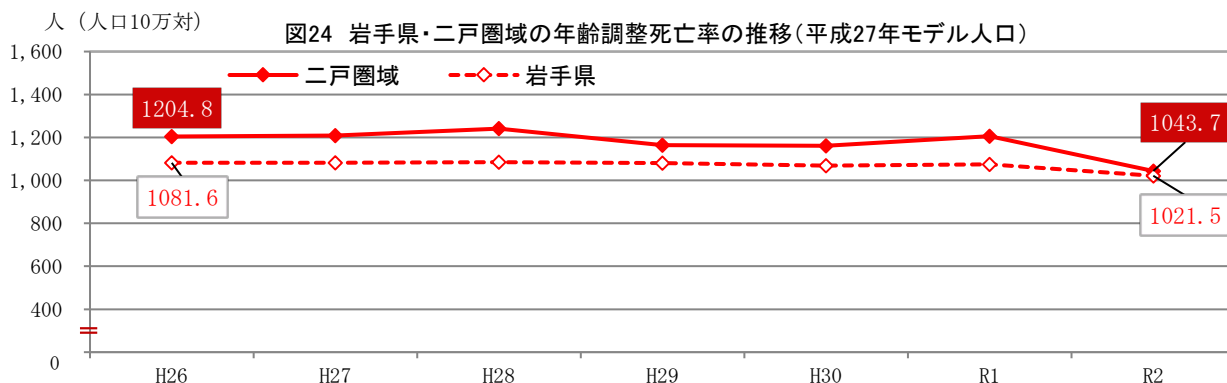
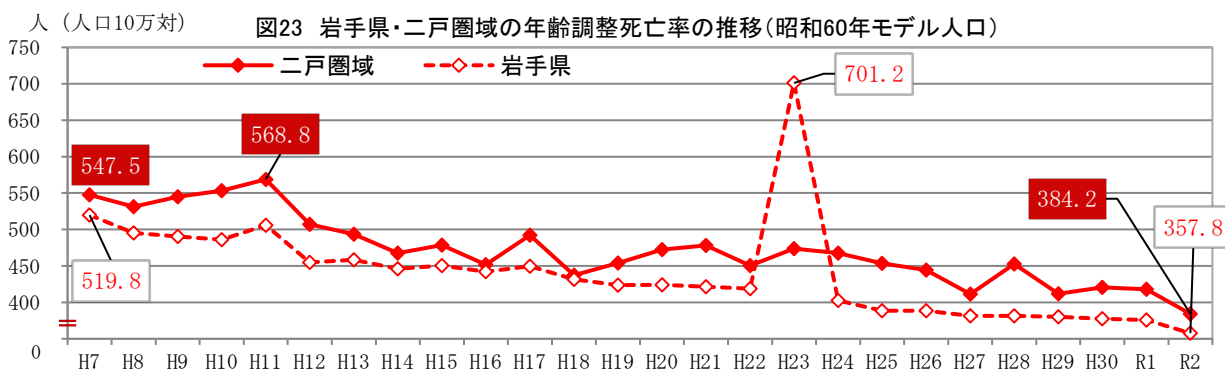
(図23)の人口10万人当たりの年齢調整死亡率※で見ると、二戸圏域は平成7年の547.5から令和2年は384.2と低下傾向にあります。岩手県全体の平成23年死亡率が高いのは、東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いためです。

なお、(図23)(図24)を見ると、二戸圏域は全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。

※年齢調整死亡率:年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率(人口10万人当たり)です。年齢調整死亡率は、従来昭和60年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用した数値を掲載していましたが、令和4年2月25日に厚生労働省が「年齢調整死亡率の基準人口について」を改訂し、新たに平成27年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用することとなりました。この基準人口改訂は、近年の高齢化による人口構成の変化を反映したものとなっています。

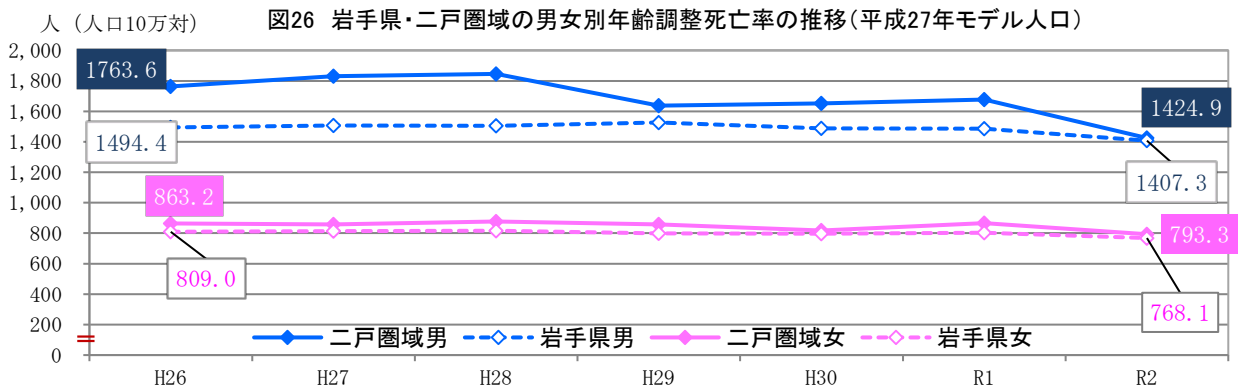
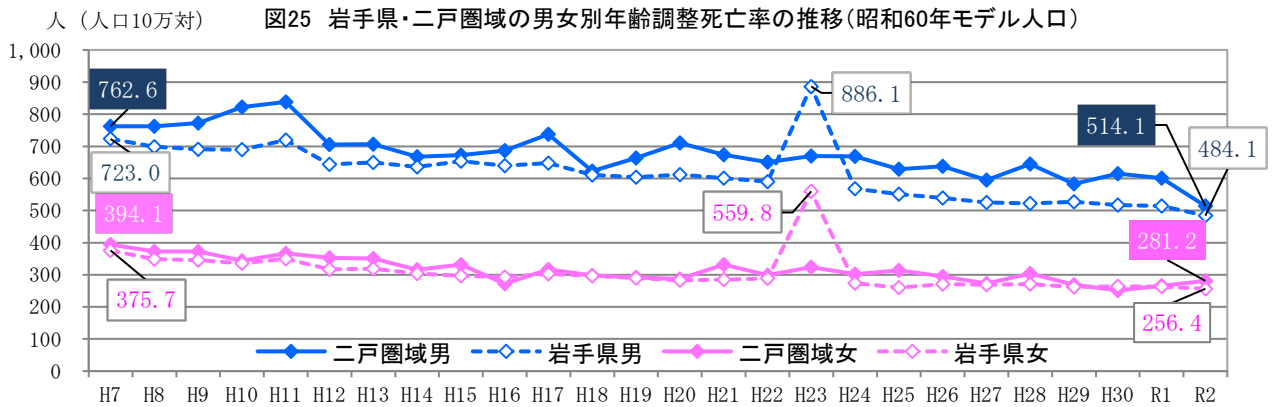
なお、県や市町村の健康増進計画等で使用している年齢調整死亡率は、昭和60年モデル人口を使用した数値を用いており、継続した経年比較や傾向把握が必要であることから、従来に引き続き昭和60年モデル人口を使用した数値を掲載しています。また、新たな県の健康増進計画との比較を考慮し、現行計画の期間(平成26年～令和5年)分について、平成27年モデル人口を使用した数値も掲載しています。

岩手県の年齢調整死亡率は不詳人口を按分して算出、二戸圏域は不詳人口を除いて算出しています。



### 3 男女別年齢調整死亡率の推移

年齢調整死亡率は、男女で大きく異なることから、男女別で(図25)(図26)に示します。  
 (図25)を見ると、二戸圏域の男性は、平成7年の762.6から令和2年は514.1にまで低下しています。女性は、平成7年の394.1から令和2年は281.2にまで低下して推移していることがわかります。  
 なお、(図25)(図26)を見ると、二戸圏域は岩手県全体より高く推移しています。男性は女性の約2倍前後の値で推移し、男性の死亡率が高い状況です。



### 4 年齢調整死亡率の死因別順位

死因別の年齢調整死亡率について、岩手県・二戸圏域の男女別にその値を求め、死因毎に値の高い順に5位までを下表に示しています。

区分(昭和60年モデル人口)		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
		年齢調整死亡率	153.9	67.7	51.0	25.1	21.1
	二戸圏域	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故	
		年齢調整死亡率	142.1	62.3	47.5	37.7	29.3
女性	岩手県	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺	
		年齢調整死亡率	92.2	33.2	25.7	17.3	11.3
	二戸圏域	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺	
		年齢調整死亡率	114.9	40.6	32.9	15.8	14.4

区分(平成27年モデル人口)		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		年齢調整死亡率	411.6	213.0	147.2	85.0	82.8
	二戸圏域	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	
		年齢調整死亡率	380.0	185.3	134.4	118.2	103.5
女性	岩手県	死因: 悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		年齢調整死亡率	214.4	121.6	88.1	84.3	29.6
	二戸圏域	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	肺炎	
		年齢調整死亡率	234.1	132.8	105.8	84.0	24.4

＜参考＞令和2年死因別死亡数順位

岩手県・二戸圏域の男女別に死因毎の死亡数の多い順から5位までを示しています。

岩手県と二戸圏域で比較すると、男性は第1位「悪性新生物」から第5位「老衰」まで同じ順位となっており、女性も第1位「悪性新生物」から第5位「肺炎」まで同じ順位となっています。

区分		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		死亡数	2,562	1,254	889	487	428
	二戸圏域	死因 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	
		死亡数	117	55	41	35	27
女性	岩手県	死因 悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		死亡数	2,019	1,477	1,312	987	381
	二戸圏域	死因 悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		死亡数	107	81	66	62	17

5 悪性新生物の岩手県・二戸圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「悪性新生物」について、岩手県全体・二戸圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図27)(図28)に示します。

(図27)を見ると、二戸圏域では、男性は平成23年以降は岩手県全体に比べ高く推移していますが、令和2年は142.1と低く推移しています。女性は長期的に見ると岩手県全体と同程度の数値で、ほぼ横ばいで推移していますが、令和2年は114.9と高く推移しています。

(図28)を見ると、二戸圏域の男性は年ごとに変動があり、令和2年は岩手県全体より低く推移しています。女性は年ごとの変動はあるものの、概ね岩手県全体に近い死亡率で推移しています。令和2年は高く推移しています。

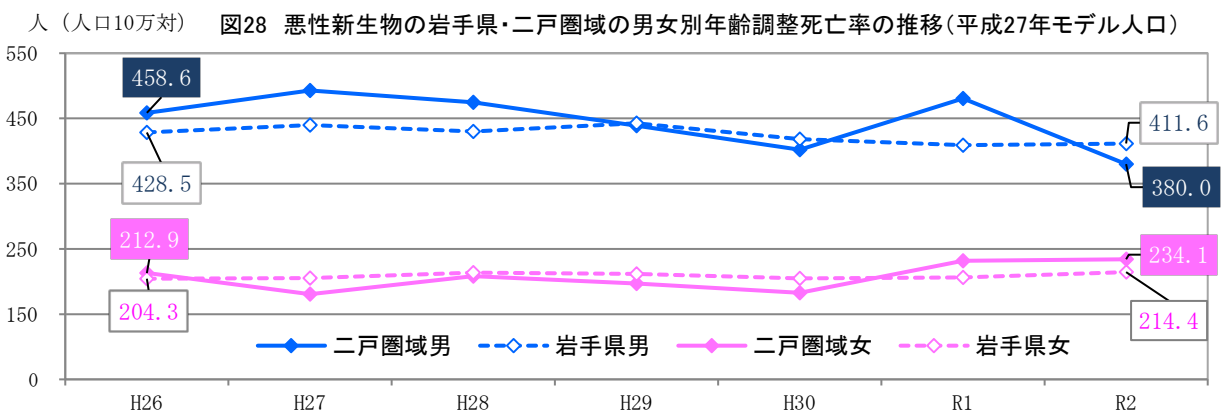
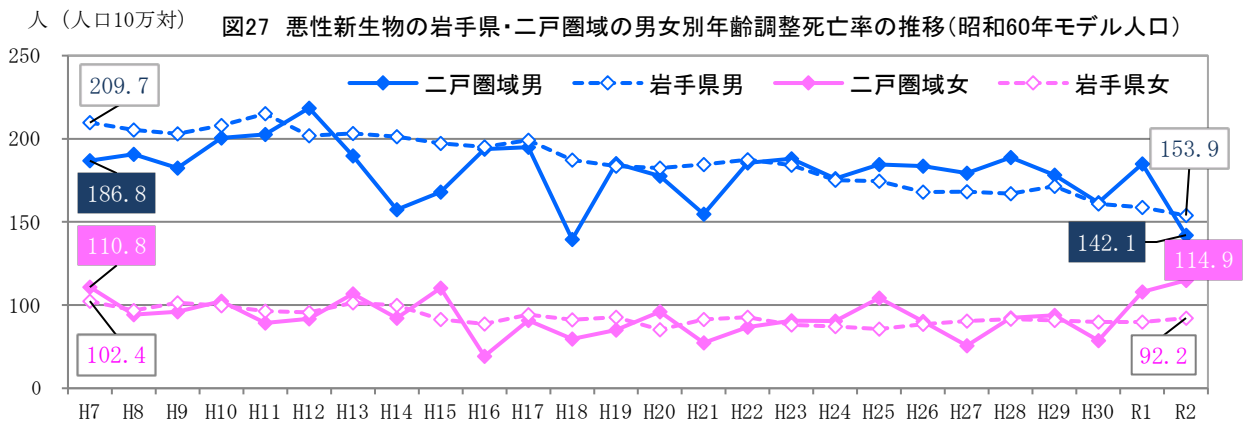


表1 悪性新生物の部位別年齢調整死亡率の順位

悪性新生物の部位別年齢調整死亡率について、令和2年の岩手県・二戸圏域の男女別にその値を求め、値の高い順から3位までを下表に示しています。

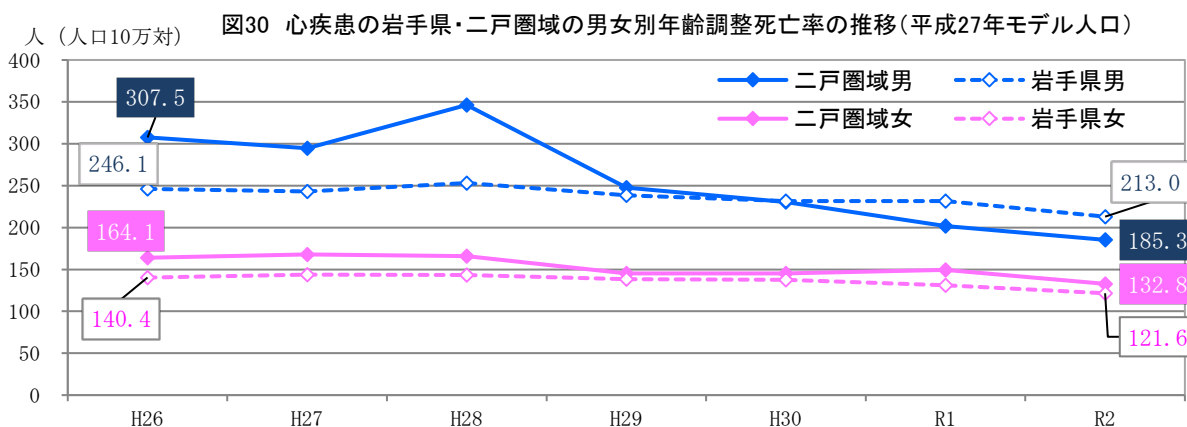
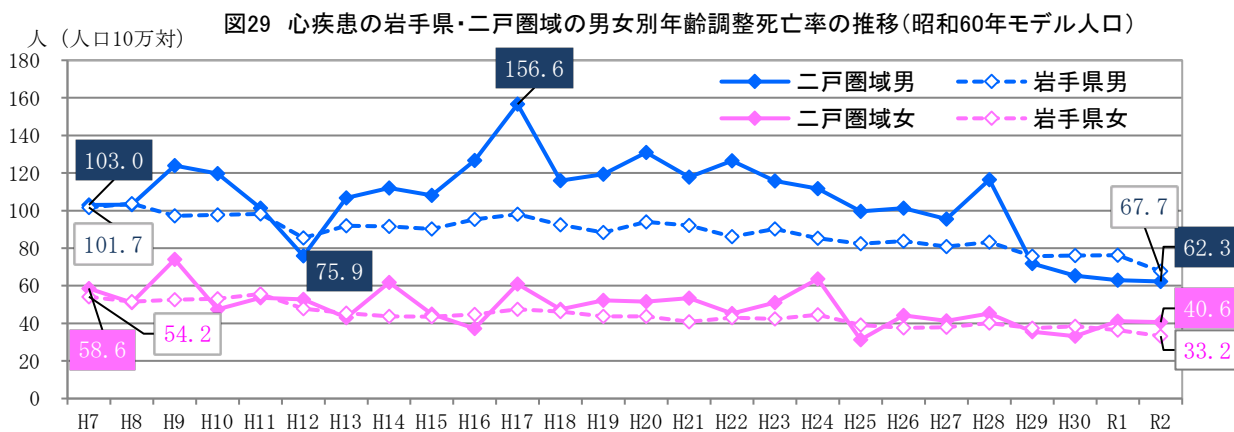
		区分(昭和60年モデル人口)	第1位	第2位	第3位
令和2年	男性	岩手県	死因	肺	大腸
		年齢調整死亡率	35.2	26.0	20.6
	二戸圏域	死因	肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	38.0	36.2	14.0
女性	岩手県	死因	大腸	乳	肺
		年齢調整死亡率	14.5	13.4	9.4
	二戸圏域	死因	大腸	乳	肺
		年齢調整死亡率	27.1	14.1	10.4
		区分(平成27年モデル人口)	第1位	第2位	第3位
令和2年	男性	岩手県	死因	肺	大腸
		年齢調整死亡率	93.5	66.2	55.2
	二戸圏域	死因	肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	103.6	89.3	40.1
女性	岩手県	死因	大腸	肺	乳
		年齢調整死亡率	37.8	26.0	23.1
	二戸圏域	死因	大腸	肺	乳
		年齢調整死亡率	49.6	27.9	25.7

### 6 心疾患の岩手県・二戸圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「心疾患」について、岩手県全体・二戸圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図29)(図30)に示します。

(図29)を見ると、二戸圏域では、男性は平成12年に75.9と平成7年以降最も低くなりましたが、その後上昇し平成17年は156.6と平成7年以降最も高くなりました。平成13年以降は岩手県全体より高く推移していましたが、令和2年は62.3と低く推移しています。女性は平成17年以降岩手県全体より高く推移、平成25年から増減を繰り返し、令和2年は40.6と高く推移しています。

(図30)を見ると、二戸圏域の男性は年ごとの変動はあるものの、令和2年は岩手県全体より低く推移しています。女性は概ね岩手県全体に近い死亡率で推移しているものの、全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。

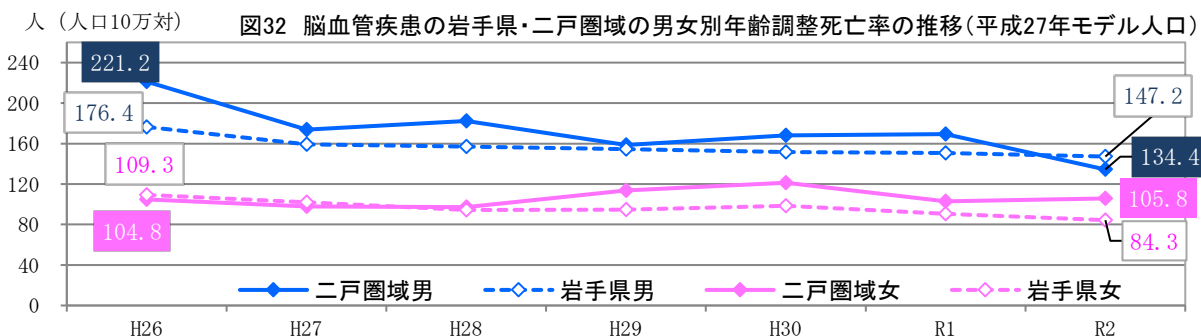
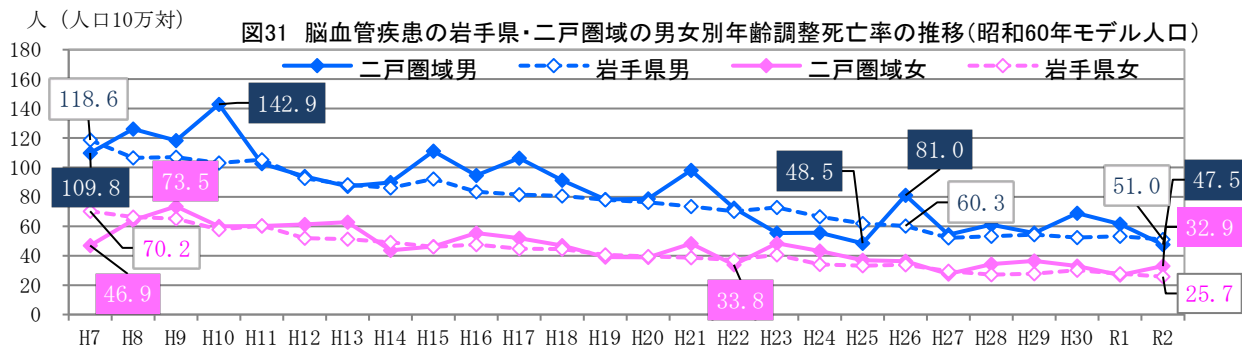


## 7 脳血管疾患の岩手県・二戸圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「脳血管疾患」について、岩手県全体・二戸圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図31)(図32)に示します。

(図31)を見ると、男性は、平成10年に大きな山を形成しその後は上昇と低下を繰り返しながら低下傾向にあります。平成25年は平成7年以降最も低い死亡率でしたが、平成26年は大きく上昇して岩手県全体を上回りました。令和2年は47.5と岩手県全体より低く推移しています。女性は、平成7年から平成9年にかけて上昇して以降、増減を繰り返しながら概ね減少傾向を示していましたが、平成27年以降はわずかに上昇傾向にあります。令和2年は32.9と岩手県全体より高く推移しています。

(図32)を見ると、二戸圏域の男性は岩手県全体より高く推移している年次が多いですが、令和2年は低く推移しています。女性はほとんどの年次で高く推移しています。

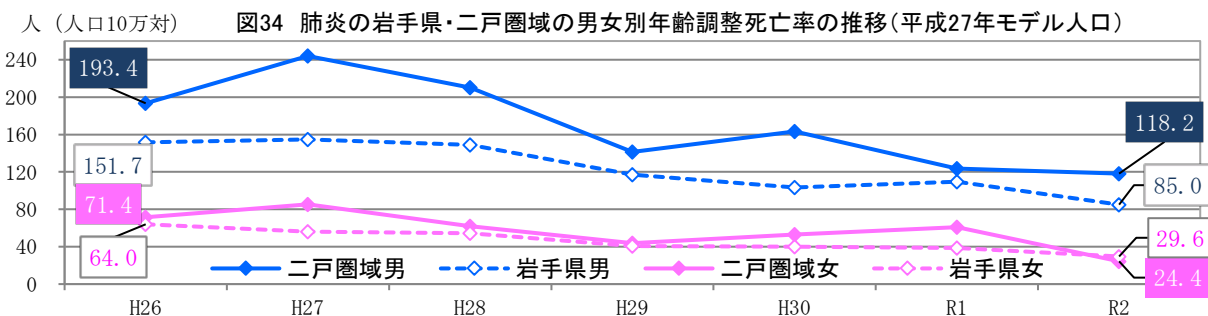
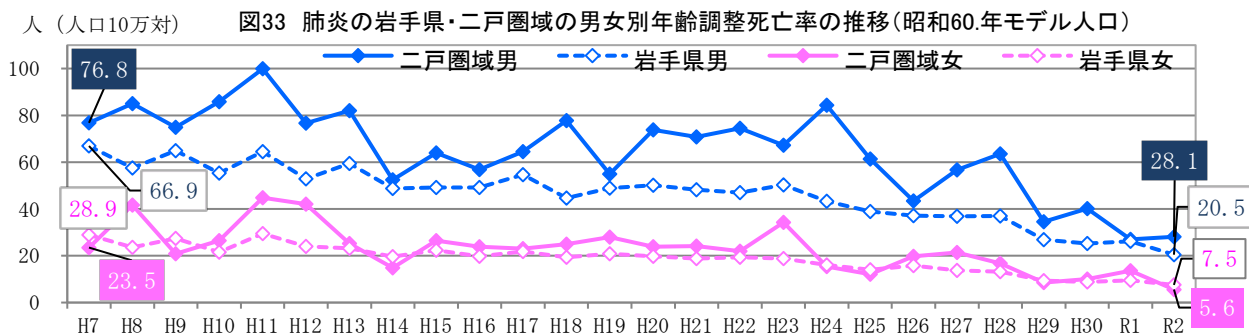


## 8 肺炎の岩手県・二戸圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「肺炎」について、岩手県全体・二戸圏域男女別の年齢調整死亡率の推移を(図33)(図34)に示します。

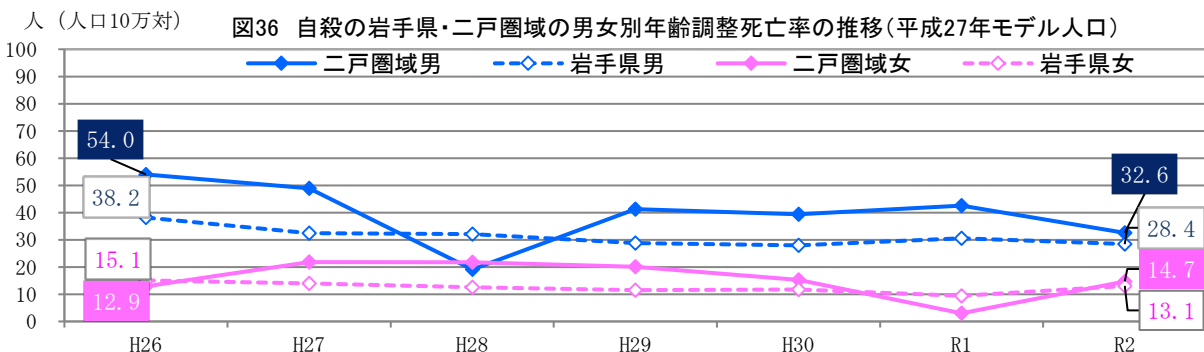
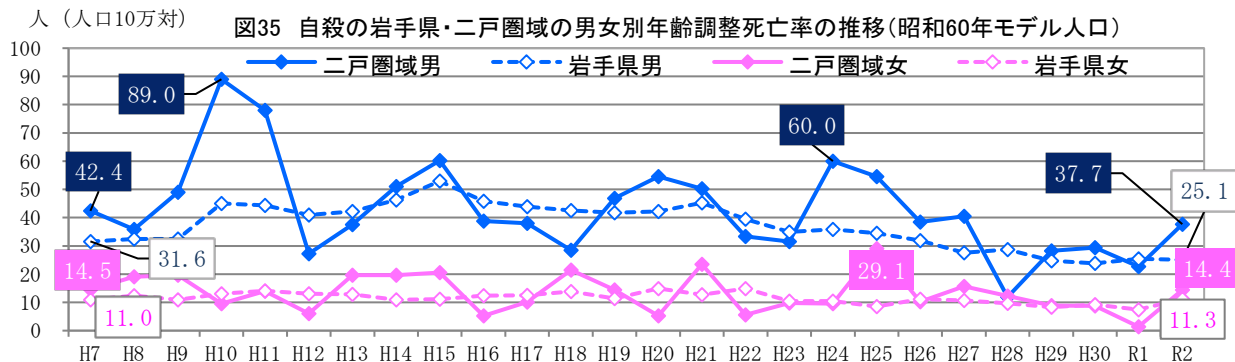
(図33)を見ると、二戸圏域では、男性は岩手県全体より高い死亡率で推移しており、平成7年の76.8から大きく上昇と低下を繰り返しています。令和2年は28.1と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成7年から14年まで大きく上昇と低下を繰り返していましたが、平成15年以降は、岩手県全体より高い死亡率ながら概ね横ばいで推移しており、令和2年は5.6と岩手県全体より低く推移しています。

(図34)を見ると、二戸圏域の男性は全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。女性は高く推移している年次が多くなっていますが、令和2年は低く推移しています。



## 9 自殺の岩手県・二戸圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「自殺」について、岩手県全体・二戸圏域男女別の年齢調整死亡率の推移を(図35)(図36)に示します。  
 (図35)を見ると、二戸圏域では、男性は平成7年の42.4から平成10年に89.0と大きく上昇し、翌年以降上昇と低下を繰り返しています。平成24年は岩手県全体を大きく上回る60.0となっています。令和2年は37.7と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成7年の14.5から上昇と低下を繰り返し、平成25年は29.1と平成7年以降最も高い死亡率となりました。翌年の低下後の上昇を経て、減少傾向となりましたが、令和2年は14.4と岩手県全体より高く推移しています。  
 (図36)を見ると、二戸圏域の男性は平成28年に大きく低下したものの、それ以外は岩手県全体より高く推移しています。女性はほとんどの年次で高く推移しており、令和2年も岩手県全体より高く推移しています。



## 10 老衰の岩手県・二戸圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「老衰」について、岩手県全体・二戸圏域の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図37)(図38)に示します。  
 (図37)を見ると、男女とも大きく上下しながら推移しています。近年は男女とも県全体より高い傾向にあります。令和2年は男性が14.8と岩手県全体より高く、女性は15.8と低く推移しています。  
 (図38)を見ると、二戸圏域の男性は年ごとの変動はあるものの、岩手県全体より高く推移している年次が多くなっています。女性は高く推移している年次が多くなっていますが、令和2年は低く推移しています。

